



こども海洋リサーチ
“ 調査レポート ”



事務局より

レポートの枚数は特に指定いたしません。

行幅が足りなくなった場合は、行幅を広げて文字入力をしてください。

調査レポートは ~ の項目について特に力を入れて書いてください。

グループ名	リバー・リバーズ
海洋センター・クラブ名	秋田県由利町 B&G 海洋センター
担当者名	長 滝 功
グループ構成	由利小学校はかせクラブ(4年11人、5年8人、6年6人、) 先生2人、由利町カヌークラブ、水辺協議会
調査の中心となった方	由利町カヌークラブ

レポートの題名	私たちの川はきれいですか
調査場所	町内を流れる子吉川の桜堤公園と旧小学校付近水域の2ヶ所

調査目的	<p>(どのようなことがきっかけ・理由で調査をしたのか)</p> <p>町内の3小学校が平成16年4月に統合され1校になりました。そのうちの廃校になる1校は町内を流れる子吉川のすぐそばにあり、木造校舎で歴史を感じさせる校舎で、この校舎と川を融合させた「川の駅」構想があり、町、地域住民が一体となり実現に向けて計画が練られています。そこで現在の川の実状を知り、きれいな川を取り戻すために活動したいと考えました。</p>
調査場所の水辺の特徴や歴史	<p>町の中心を流れる子吉川で、廃校になる西滝沢小学校前と下流約4km付近の桜堤公園カヌー乗り場の2ヶ所を実施した。参考のために上流10km付近(矢島町)と下流10km付近(本荘市)の2ヶ所も1回実施した。</p> <p>桜堤公園カヌー乗り場では毎年海の日に「子吉川で遊ぼう・ふれよう・カヌー体験」を実施している。</p>

<p>調査の手順や実施方法</p>	<p>由利小学校はかせクラブ4年生から6年生まで25人を5班に分けて、14時30分から16時までの1.5時間で実施した。由利小学校から川への移動にはスクールバスを使用しました。</p> <p>最初の1回目は水質検査キッドの使い方、救命胴衣の着用方法などに時間がかかり時間がたりませんでした。参加者全員に責任感をもって調査できるように一人ひとりに測定する種類を振り分けて実施しました。</p>
<p>調査内容</p>	<p>平成16年5月から11月まで月1回の計画で、簡易水質測定器による水素イオン濃度・化学的酸素要求量・アンモニウム・亜硝酸・リン酸・気温・水温・濁度の8項目を調査した。</p> <p>そのほかに水生生物調査とカヌーに乗っての水上観察を実施した。</p> <p>今年は雨天が多く予定どおりいかなかったが、川で行えない日は学校まわりの池や生活排水路や雨水を調査して比較した。</p>
<p>調査分析</p>	<p>(調べたデータをグラフや分布地図などにわかりやすくまとめる)</p> <p>データを比較分析すると概ねどの項目も満足する結果だったのがわかります。参考のために上流と(矢島町)下流の(本荘市)2ヶ所からも採水して比較してみました。矢島町は人口約6,000人その上流には鳥海町人口約5,000人の町しかなく鳥海町が子吉川の水源となっています。また、本荘市は人口45,000人で日本海に面しており、調査水採取場所は河口1kmの場所でした。</p> <p>水質は上流にいけばいくほどきれいになり、下流になればなるほど水質が悪化しているのがわかりました。水生生物も思っていたより種類が多く、昔のきれいな川にもどりつつあると感じました。しかし川岸にはたくさんのビニールや発泡スチロールなどのゴミが目立ち残念でした。</p> <p>子どもたちはどう見たでしょうか。</p>
<p>グループ内で話し合った項目、特に意見が分かれた点</p>	<p>私たちはカヌーに乗るために子吉川だけでなく、県内の他の川に行き行って様々な川を見ています。そのときに必ず地元の子吉川と比較してしまいます。その時に思うことは、子吉川はこの川と比べてきれいなのか汚れているのかと考えたときに見た目でしか判断できないことでした。</p> <p>今回実際に水質検査をしてみて、あらためてデータ上でもきれいになりつつあるということがわかり大きな収穫でした。</p> <p>以前は工場排水のために奇形魚が発見されたり、生き物がいなくなったりしたこともありましたが、今では鮎、鮭、カジカ、鱒、モクズガニなど生息するようになりました。それでも私が子どもの頃のような川には戻っていないのが現実です。子どもたちは川を見てきれいだと思うかもしれませんが、一人ひとりが努力することによってもっときれいになるということ、今後どのような形で伝えていかなければならないか考えなければなりません。</p>

<p>調査の結果わかったこと、発見したこと、疑問に思ったこと</p>	<p>(私たちの生活がそれらにどう影響を与えているのか、もしくは、それらが私たちの生活にどう影響しているのかも書こう)</p> <p>水質にもっとも影響を与えるものとして生活排水の問題があります。由利町では下水普及率が約80%ですが上流の2町の下水普及率は20%程度と、今後普及率が高くなると水質の改善も益々進むと考えられます。しかしゴミの問題は一人ひとりの問題であり個人の自覚にゆだねられています。</p> <p>まず大人が手本になって、それを見た子どもたちが環境問題をあたりまえに考え、行動する構図にしていきたいと思います。</p>
<p>わかったことや発見したことをどうやって他の人に伝えようと思いますか</p>	<p>(例えば、調査したことを紙芝居にして、他の人にもそのことを伝えるなど)</p> <p>由利小学校では由利小まつりが11月13日(土)に行われ、クラブ活動の発表の場があり、その場で全校生徒及び父兄、一般見学者の前で調査結果について発表がありました。</p> <p>活動で楽しかったこと、わかったこと、感じたことなどを、子どもたちが大勢の前で発表し、また、展示コーナーにはグループ毎に作成した調査結果表を壁新聞にし展示したことにより、たくさんの方々の目にふれ活動内容が十分に伝わったことだろうと思います。</p> <p>この調査結果の壁新聞は海洋センターへも展示し、海洋センター利用者の方々にも活動内容が伝わっています。</p>
<p>調査した場所や内容についての感想や意見について</p>	<p>(例えば、「この川の自然を残すためには、私はこう思う」「将来はこうなっていればいいと思うので、私はこういうことをしていきたい」など)</p> <p>子吉川は鳥海山(2,236m)を源に全長60.8km、4支流1市5町の流域です。その中の町内を流れる川の2地点を中心に調査を行いました。私たちだけが川をきれいにしようと頑張っても限度があり、流域すべての方々に伝え賛同を得て実現できるようになります。まず自分たちができることから行動を起こし、仲間を増やし日本一きれいな川、他に誇れるような川の実現に向けて今後も活動していきたいと思います。</p> <p>活動内容の自己評価をみると、また参加したいという子どもたちが多かったことは良かったです。</p>